

新しい糖尿病対策事業を開始 展示や栄養相談を実施



2月17日。春一番が吹き、平昌五輪のフィギュアスケート男子フリーで羽生結弦選手が圧巻の演技で2連覇を果たした日、安城南ライオンズクラブ（杉浦弘昌会長／82人）はアピタ安城南店1階ホールで新しい糖尿病対策アクティビティを実施した。これは、当クラブのチャーターメンバーである八千代病院の小林一郎5歳・保健委員長の下、病院職員（糖尿病認定看護師、管理栄養士他）の協力を得て、血糖値測定体験・栄養相談・展示などを実施したもの。クラブ

では糖尿病対策ポップが入ったポケットティッシュを配布した。今回は初の試みで、全てが手探り。334-A地区キャビネット主催の糖尿病予防セミナーに出席するなどして、検討を重ねた。世界保健機関は世界中で4億2000万人以上が糖尿病を患っているとしており、2040年までに6億4200万人以上が罹患すると予想している。当日は67人の血糖値測定体験を行い、大変好評だった。今後

も糖尿病の意識向上、教育、予防、発見、管理、研究を支援したいと思っている。また、この日は日本赤十字社血液センター、衣浦東部保健所生活環境安全課と協力して献血・骨髄移植推進活動も実施。当クラブ・メンバーも含め63人の献血を受付、55人に献血して頂いた。日本赤十字社血液センターから次年度もお願いしたいと依頼があり、骨髄バンク・ドナー登録も推進した。降雪の影響で、献血が中止になり血液が不足している地域がある中、たくさんのご協力に心からお礼申し上げる。

（PR・IT委員会）

LION in JAPAN

5・6
2018

今月の特集

聴覚障害者支援



Official Publication of Lions Clubs International

